

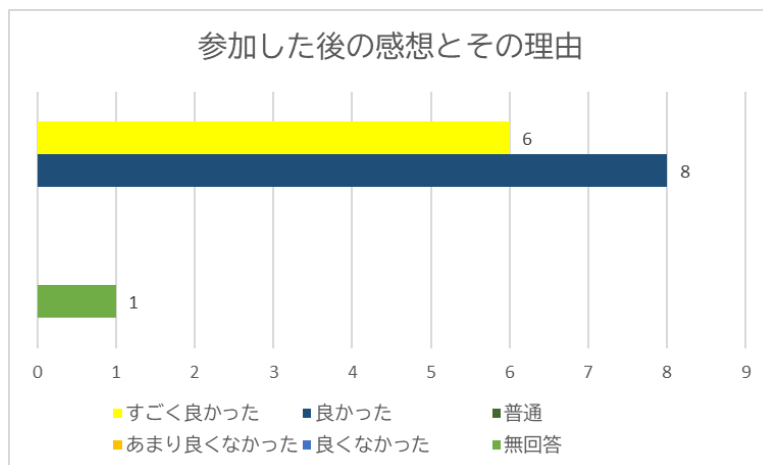
令和5年度 横浜市多文化共生ワークショップ 参加者アンケート

【質問1 本ワークショップに参加した理由】(抜粋)

- ・日本在住の外国人の困っている内容や現状、参加者の皆様の取組や考え方を知りたかった
- ・大学で外国語を勉強しているため、多文化共生における言語の壁という問題に興味を持ったから
- ・外国人の学校教育サポートは、どこまで進んでいるかを知りたく、日本の方とそれについていろいろ意見交換をしたかったから
- ・ラウンジスタッフとしてラウンジ運営の参考に必要と考えたため

【質問2 参加した後の感想とその理由】

1 すごく良かった 2 良かった 3 普通 4 あまり良くない 5 良くなかった



(理由) 抜粋

- ・シチュエーションを想定しての話し合いや自己紹介はとても役に立ちました
- ・4つのグループにわけることによって、進行がスムーズになり、また、いろいろと考えることができたため
- ・話し合いで自分が考えつかなかった考えをいろいろ知ることができた。実態を知ることができた
- ・国際交流で働いている方とお話のできたので、サポートを提供する立場からどんな課題や改善がありどういった解決策が進められているかが聞けて情報を得られた
- ・いろいろな年代・職業の方が集まってくれていたの、様々な意見を聞くことができたから
- ・実際に外国人とともにワークを通じて生の声を聞いてよかった
- ・時間がかかなりタイトに感じたため、もう少し話し合う時間があればと思った。

【質問3 外国人と日本人が共生していく社会をつくるために何が一番大事だと思いますか】(抜粋)

- ・文化的背景によって判断しないようにする相手の個人的な事情を理解しようとする
- ・異文化を完全に「理解する」には難しいからまずは「知る」ことが大切だと思う。「助ける」精神ではなく、一緒に助けあう。
- ・お互いの言語を理解するだけでなく、相手の立場と事情も理解する努力が必要なこと
- ・日本人側が日本の社会を支えていくうえで外国人に日本を選んでもらうことが不可欠だという認識
- ・個別を重んじ、一人一人を尊重できるようになることを日本人同士でもいえることである

【質問4 多文化共生に関して、行政に期待すること】(抜粋)

- ・ボランティアベースになっているところを補っていくこと、既存サービスを外国人に届きやすくすること
 - ・自動通訳システムの導入
 - ・ワンストップショップのような外国につながる人々への情報が取れるサイトとシステム。
- 関連事業の資金の支給増加
- ・全国的に在住外国人が増えているので、選ばれるまちになるため、他国の事例を取り入れ積極的に推進していただきたいです。
 - ・NPOの財政的支援、ラウンジ運営の最適化、可能な範囲での日本語ボランティアの支援の仕組みづくり
 - ・外国人居住者に対して個別サービスの強化